

## 令和2年度香川大学大学院入学式 学長告辞

本日、香川大学大学院に入学された修士課程153名、専門職学位課程47名、博士（後期）課程34名、総計234名の皆さん、入学おめでとうございます。香川大学の教職員一同とともに皆さんの入学を心からお慶び申し上げます。また、これまで皆さんを支えて来られたご家族や関係者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

本来は幸町キャンパスのオリーブスクエアにお集まりいただき、すべての新大学院生にお祝いを述べさせていただく予定でした。しかしご承知のように新型コロナウイルスの感染拡大に伴い本日のような変則的な入学式となってしまいました。学長として皆さん一人ひとりに直接お話できないことを大変残念に思っております。

まことに残念な入学式となりましたが、一方で新入生の皆さんは人生の中でまたとない経験をされているのではないかと考えています。中国の武漢市でこの感染症が発見された当初、皆さんの多くは私と同じようにどこか他人事のように感じていたのではないのでしょうか。その後、感染者を乗せた大型クルーズ船が横浜に寄港し、日本政府が様々な対応に追われているうちに、我が国を含む周辺諸国での感染者の報告が日を追って増加し、ついには世界中でお互いの国の往来も難しい状態になりました。マスクをはじめ様々な物資が不足し、経済活動が停滞してきています。小中高校が一斉に休校になったことについても賛

否両論の意見が出る中、何とか子供たちが安全に暮らせるようにと地域の人々が知恵を出し合っています。

今回の新型コロナウイルスの世界的感染拡大で医療システムの見直しや未知の感染症に対する防疫体制などが見直されると思いますが、それ以外にも人々の暮らし方そのものや、社会のシステムやサービス、産業が大きく変革するきっかけになるのではないかと感じています。私が学長に就任後、大学院入学式で毎回申し上げていることがあります。それぞれの専門領域で研究を開始される皆さんにとって、研究の1丁目1番地はリサーチ・クエスチョンを明らかにする、すなわち「問いを立てる」作業であるということです。それぞれの学問分野には明らかにしなければならない課題がたくさんあるはずです。その中から、本当に自分が明らかにしたい課題に対して問いを立てるわけです。人工知能がヒトの役割の多くを肩代わりする時代が目の前にやってきていますが、「創造的な問い」を立てる能力は人間ならではの能力です。どの専門領域の学問も社会と切り離して存在するものではありません。本日から大学院でそれぞれの専門学問の領域で深い勉学と研究を開始される皆さんには、どうか今回の新型肺炎発生を契機に皆さんの周囲や世界全体で起こっていることをつぶさに観察して、ご自分の研究テーマを考える際にも大いに参考にしてもらいたいと思います。

香川大学大学院では2年後の開講をめざして新研究科の設置検討に入ってい

ます。新研究科では自然生命科学と人文社会科学を融合し、様々な社会課題に対応できる幅の広い研究を展開する予定です。これからのイノベーションは、様々な専門領域の研究者が繋がって、新しい研究分野を切り拓いていく時代に突入しています。本日から大学院で研究を開始される皆さんは、その先駆けとしてどしどし自分の専門領域以外の先生方や学生と交流し、創造的な問いを立てる糧にしていってください。人生の大切な一時期を研究に捧げられるわけです。その決心を大事にして、また皆さんを支えてくださるご家族や関係者の方々に感謝しつつ、本日からの大学院生活を心からエンジョイされることを期待しています。

令和2年4月3日

香川大学長 笥 善行